

Rotary Yachiyo



UNITE
FOR
GOOD

よいことのために手を取りあおう

八千代ロータリークラブ CLUB NO.15070

2025-26 年度国際ロータリーメッセージ

「よいことのために手を取りあおう」

2025-26 年度クラブテーマ

「親睦が原点」

週報 第2825回

2026年2月13日

今回例会行事

テーマ：やきもの「染付け・呉須」について

担当：ロータリー財団委員会

卓話者：永田勝久会員

次回例会

テーマ：クラブ協議会

担当：会長・幹事

◆◆◆第2824回例会◆◆◆

司会 市原正男

「君が代」「奉仕の理想」 斉唱

お客様

社会福祉法人 翠耀会

理事長 津川恵美子様

高齢者複合ケア施設グリーンヒル八千代台

施設長 日高和枝様

課長 大竹 暁様

栄養課 調理チームリーダー 小川洋子様

社会福祉法人 八千代市社会福祉協議会

相談支援課 課長 河島和城様

主査補 安原滋克様

常務理事・事務局長 村田和子様

会長挨拶

会長 中島貞好

来週、12グループでボウリング大会を開催いたします。すでに数多くの方にご出席をいただく予定となっております。ロータリークラブでは、各地でボウリング大会を行っているところも多いようですが、私はこのクラブに来てから、たぶん今回が初めての参加になると思います。ボウリング大会は、ゴルフ大会と違って、より多くの方が参加できるのが特徴です。八千代からの参加者は14名です。この中でマイボールを持っている方、いらっしゃいますか？私も少しインターネットで調べてみたのですが、「スコアが安定するコツ」というのがありました。今後、皆さんもボウリングをやる機会があると思いますので、「自分はどうかな？」と思いながら聞いてみてください。まず一つ目。

強く投げるほど、ボールは曲がります。

力を入れると、ガーターに行ったり、1番ピンに当たらなかったり、結構ありますよね。正解は「転がすイメージ」で、一定のスピードで投げるのだそうです。狙うのは1番ピンではありません。レーンの手前、スパットと呼ばれる三角形の黒い印があります。そこどこに通すか、立つ位置によって真ん中を通すのか、2番目・3番目を通すのかが決まります。遠くのピンを狙わず、そのスパットだけを見て投げる。結果として1番ピンに当たる、というわけです。だいたい皆さん、ピンを見て投げますからね。

次に、ボウリングはリズムが命です。

皆さん、何歩で投げていますか？通常は5歩が理想だそうです。ちょこちょこ歩く人もいますが、基本は5歩です。

そして指の離れる順番は？

最初に親指が抜けて、次に薬指、中指。中指が最後です。プロボウラーは、この最後の2本の指で投げることで、フックボールのように大きく曲げます。中には、親指を入れずに、2本の指だけで投げるプロボウラーもいるそうです。

スコアについてですが、

初心者は70～100、

中級者は100～130、

上級者は150以上。

プロになると200以上とされています。

この中で「150以上、自分は上級者だ」と思う方はいらっしゃいますか？かつてハマった方は相当うまくなって、200くらい出る方もいるんじゃないかと思えます。ぜひ来週のボウリング大会、参加希望の方、また参加したいという方は、幹事の方までお声がけください。

本日はこのような会長挨拶とさせていただきます。楽

しんでいただけましたでしょうか。

幹事報告

幹事 朝戸健夫

- ・ガバナー月信にユメセンの表彰、米山表彰で石渡会員が掲載されています。
- ・13日12グループ対応のボーリング大会が開催となります。
- ・3/7プラモデル同好会開催
- ・2/13理事会開催

お客様挨拶

八千代市社会福祉協議会

常務理事・事務局長 村田和子様

社会福祉協議会の村田と申します。日頃より、社会福祉協議会の活動に対しまして、八千代ロータリークラブの皆さまには多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。また、昨年12月には、当会ふらっとホーム大和田、緑が丘ほっこりに多大なるご寄付を賜り、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。さらに、当会理事としてご就任いただいております橋本理事、そして社会奉仕委員長の佐野様におかれましては、実際の活動現場にもご足労いただき、当会の活動に深いご理解を賜りましたこと、重ねて感謝申し上げます。このような貴重な機会を設けていただきましたことにも、心より御礼申し上げます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

社会福祉法人 翠耀会

理事長 津川恵美子様

私たちは社会福祉協議会の皆さまのご協力をいただきながら、八千代台グリーンヒルにおきまして、ふらっとホーム子ども食堂として運営をさせていただいております。2019年に開始し、現在5年、6年が経とうとしているところでございます。開始当初は、高齢者の方のご利用が非常に多かったのですが、最近では子どもたちの数もだいぶ増えてまいりまして、毎週火曜日の夕方5時半から、とてにぎやかに開催しております。このふらっとホーム、いわゆる「食堂」は、社会的には「こども食堂」という呼び方が分かりやすいかと思いますが、八千代台グリーンヒルでは、子どもに限らず、小さなお子さんから高齢者の方まで、世代を問わない「居場所づくり」として取り組んでおります。事業として、地域に根付いてきたのではないかと感じております。「こども食堂」というと、貧困といったイメージを持たれることもありますが、実際には、本当にさまざまな方の居場所として定着しております。以前は週2回実施しておりましたが、現在は週1回の開催となっております。それでも毎回、100名近い方にお越しいただいております。昨年のクリスマスの時期には、クリスマス会として約140位の方にご参加いただきました。本当に、にぎやかで楽しい場所となっておりますので、ぜひ機会がご

ざいましたら、足を運んでいただければと思います。最後になりますが、日頃よりロータリークラブの皆さまには大変お世話になっており、現在、地元の冊子の19ページと24ページに掲載をさせていただいております。後ほどご覧いただけましたら幸いです。本日は、この後、小川栄養士の方からも楽しいお話が聞けるかと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

委員会報告

橋本幹雄会員

社会奉仕委員長の佐野さんからの“ご指名”を受けまして、私の方から少しお話をさせていただきます。本日、托鉢をさせていただきます。子ども食堂の活動についてご理解・ご賛同いただけました方からで結構ですので、ご協力をいただけましたら幸いです。

本日の托鉢は45,000円でした。皆さまのご支援に感謝申し上げます。社会福祉協議会を通して、こども食堂に贈呈致します。

佐々木俊一会員

4/11～12に源右衛門まつりが開催されます。皆さまのご協賛をよろしくお願ひ致します。

お祝い

本人誕生日：山崎会員
結婚記念日：佐野会員

例会行事

社会奉仕委員会

委員長 佐野忠信

本日はふらっとホーム開始の契機と現状の活動のテーマでお話を頂きます。よろしくお願ひ致します。

テーマ：ふらっとホーム開始の契機と
現状の活動

卓話者：社会福祉法人 翠耀会

高齢者複合ケア施設グリーンヒル八千代台
栄養課 調理チームリーダー小川洋子様



わたくし達は、共生カフェ「ふらっとホームグリーンヒル」を開催しております。まず初めに、私ど

も社会福祉法人翠耀会について、簡単にご紹介をさせていただきます。社会福祉法人翠耀会は、福祉・介護サービスを必要とされる方々が、それぞれのニーズに応じて、心身ともに健やかな生活を送ることができ、また社会・経済・文化など、あらゆる分野で活動していけるよう、さまざまな形態のサービスを展開し、支援を行っている法人です。昭和56年、八千代市第一号の特別養護老人ホームとしてグリーンヒルを開設し、こちらを法人本部として運営してまいりました。その後、平成19年には、グループ発祥の地である八千代台に、高齢者複合ケア施設グリーンヒル八千代台を開設しております。また、平成18年から、八千代市より委託を受け、八千代台地域包括支援センターを運営し、地域で生活される高齢者の皆さまが、安心・安全に暮らし続けられるよう支援を行っております。さらに、平成28年には、障がいのあるお子さまやそのご家族に対して、質の高い支援を提供することを目的に、放課後等デイサービスグリーンヒルキッズを開設いたしました。平成30年には、義務教育修了後の児童を対象に、社会的・精神的自立を支援する自立援助ホームグリーンヒル若葉ハウスを開設しております。このように、高齢者の皆さまからお子さままで、誰もが地域で安心して生活できる社会を目指し、福祉の手を広く地域に伸ばしながら、さまざまなサービスに取り組んでおります。なお、当グループの成り立ちは、昭和37年、朝戸健が八千代台地区に医療をとの思いで開設した朝戸医院に始まります。その志を受け継ぎ、現在ではセント・マーガレット病院、特別養護老人ホームグリーンヒルをはじめ、地域に根ざした医療・福祉を展開しております。

ふらっとホームの拠点となっております高齢者複合型ケア施設グリーンヒル八千代は、地域密着型介護老人福祉施設です。地域密着型介護老人福祉施設とは、高齢者の方々が、住み慣れた地域で、できる限り長く暮らし続けられるよう支援することを目的とした施設です。地域との結びつきを重視した運営が特徴となっております。当施設では、原則として八千代市にお住まいの方を対象にご利用いただいております。もともと住み慣れた地域での生活を継続できるような支援体制を整えております。身近な地域住民の方々と触れ合いを大切にしながら、新しい生活を続けていくことが可能となっております。そのような地域密着型施設である当施設には、地域交流スペースが設けられております。施設の入り口に入ってすぐの場所にあり、日常的に、ご利用者の皆さまが地域のボランティアの方々とレクリエーションを楽しんだり、地域に向けたイベントを開催したりしております。今回ご紹介するふらっと

ホームも、この地域交流スペースを活用して実施しております。

共生カフェふらっとホームグリーンヒルは毎週火曜日の夕方5時半頃から、小学生のお子さんからご高齢の方まで、さまざまな世代の方が集まり、一緒に食事を楽しんでいただいております。私どもは、この取り組みを共生カフェと名付けております。定義として、多様な人々が集まり、交流を促進する場所として地域社会のつながりを深めていくことを目的とした場です。多様性の尊重、地域のつながり、居場所の提供があります。一般的には「子ども食堂」とお伝えした方がイメージしやすいかもしれませんが、私どもはあえて共生カフェと名付けています。その理由は、年齢や立場、背景に関係なく、誰でも・いつでも・気軽に立ち寄れる場所でありたい、そして「ここに来ていいのかな」と遠慮することのない、安心できる居場所を目指しているからです。貧困や対象を限定する場ではなく、運営しております。

当初、大きな課題となっていた社会問題が、主に三つございました。一つ目は、単身世帯の増加です。特に、65歳以上の単身世帯は、当時すでに約700万世帯あり、現在では約900万世帯にまで増えていると言われております。単身で生活されていると、どうしても食事を一人でとる機会が多くなります。また、高齢になるにつれ、耳が遠くなってコミュニケーションが取りづらくなったり、足腰が弱くなり外出が億劫になったりと、少しずつ人との関わりが減っていきます。その結果、社会的孤立が生まれやすくなるという大きな問題がありました。また経済的な困難では、お仕事を引退された方も多く、年金生活の中で、生活に不安を抱えていらっしゃる方も少なくありません。そして、介護の問題です。年齢とともに介護度が上がり、これまで当たり前でできていた生活が、少しずつ難しくなっていく方も多くいらっしゃいます。このように、健康状態や生活環境が変化し、社会的孤立が進む中で、本来であれば支援が必要な方々のSOSが、周囲に届かない、あるいは気づかれないという現状がありました。

次の大きな課題が、ひとり親世帯の増加です。ひとり親世帯となる主な要因は、約9割以上が離婚によるものと言われております。離婚というと、以前は少し社会的に遠慮されがちなイメージもありましたが、現在では社会の受け止め方も大きく変わり、決して珍しいものではなくなってきました。離婚そのものが悪いわけではありません。ただ、ひとり親となったときに、どのような課題が生じるか、という点が重要です。ひとり親世帯では、親と子どもが二人きりの生活となることが多く、先ほどお話しした高齢者のケースと同様に、社会的孤立が生まれやすい状況があります。また、ひとり親世帯の約8割は母子世帯であり、そのお

母さまたちの就労状況を見ると、約半数が非正規雇用であると言われていました。年収も 300 万円に満たないケースが多く、子育てをしながら、非常に厳しい生活を送られている方が多くいらっしゃるのが現実です。その結果、経済的な理由から十分な教育の機会を与えられなかったり、仕事の都合で、子どもが夜遅くまで一人で留守番をしなければならなかったり、一人で食事をする状況が生まれてしまうこともあります。ひとり親世帯の増加は、子どもの健全な成長に関わる課題であると同時に、貧困や生活の苦しさを「恥ずかしいもの」と感じてしまい、助けを求めたくても、うまく声を上げられないという現実にもつながっています。

最後の課題として挙げられるのが、認知症に関する問題です。実は、認知症の患者数そのものが急激に増えているわけではありません。高齢化が進む中では、ある程度避けられない側面もあり、近年は皆さまの健康意識の向上や予防の取り組みも進んでいることから、今後、患者数自体は一定に保たれるのではないとも言われています。ただし、年齢を重ねる中で、誰にとっても身近な課題として存在し続けるものであることには変わりはありません。この問題で特に大きいのが、ご本人やご家族の不安です。行政や医療機関からの情報発信も進み、「認知症」という言葉自体は、社会の中で以前よりも広く知られるようになってきました。それでもなお、誤解や偏見が、残念ながら今も根強く残っています。そして、認知症に関する大きな課題として指摘されているのが、「空白の時間」の存在です。これは、医療機関で認知症と診断されてから、実際に介護や福祉のサービスにつながるまでの期間を指します。現在でも、診断を受けてから、適切な介護サービスにつながるまでに、平均で約1年半かかっていると言われていています。この約1年半の間、ご本人やご家族は、不安を抱えたまま、過ごされていることが少なくありません。さらにその不安は、診断を受ける前、「少し様子がおかしいのではないか」と感じた、小さな違和感の段階から始まっています。その小さな不安が、介護サービスにつながるまで、長い時間を要してしまう現状が、今もなお存在しています。

この三つの課題に対しまして、私たちグリーンヒル八千代台は、どのような取り組みができるのかを話し合っていました。もともと社会福祉協議会様のほうで、「ふらっとホーム」という取り組みがすでに二か所で展開されておりましたので、私どももその活動にぜひ参画させていただきたいというお声かけをさせていただきました。また、グリーンヒル八千代台は高齢者福祉施設として成り立っておりますので、私どもの力でお役に立てることがあれば、という思いもございました。

そうした中で、皆様と手を取り合い、「ふらっとホーム グリーンヒル八千代台」を立ち上げる運びとなりました。

私たちが目指しているのは、誰もが気軽に立ち寄ることができ、みんなが笑顔になれる、心安らぐ場所をつくることです。

開設にあたり、役割分担を決めて取り組みを進めてまいりました。八千代市社会福祉協議会の皆様、そしてグリーンヒル八千代台が、ハード面を担い、そこに八千代台地区のボランティアの皆様が、まさに縁の下の力持ちとして関わってくださいました。オレンジ色のエプロンを着けていらっしゃる方々が、ボランティアの「エプロンさん」です。開設当初から現在に至るまで、約6年間、毎週欠かさず活動を支えてくださっている、本当に大切な存在です。プレオープンは今和元年の6月・7月、本格オープンは同年9月でした。当初は、まずこの取り組みを地域の皆様知っていただくこと、そして福祉の居場所として浸透していくことを目的に、毎週火曜日と木曜日の週2回開催しておりました。午後3時からカフェや学習支援、17時半からは「一緒に食べましょう」という形で食事の提供を行っていました。食事の時間までの間は、カードゲームを通して世代を超えて交流したり、学校の宿題をボランティアの方に教えてもらったりと、さまざまな関わりが生まれていました。食事の準備では、エプロンさんたちが盛り付けをする中で、「お手伝いしたい」と声を上げてくれた子どもたちが配膳を手伝ってくれることもあり、子どもたちの成長の場としても、とても有意義な時間だったと感じています。開設当初は、周知を目的としてクリスマス会を開催したり、ボランティア同士の声かけ、チラシの配布などを通じて、広く皆様知っていただく努力を重ねてまいりました。開設当初の参加者の状況は、参加者の約8割がご高齢の方やボランティアの皆様でした。しかし、12月にかけて参加者数が大きく伸びていることから分かるように、徐々に地域に根付き、参加して下さる方が増えてきたことを、私たちも大変うれしく思っていました。その矢先、新型コロナウイルス感染症の流行により、食事提供を休止せざるを得ない状況となりました。結果として、約2年6か月という長い期間、休止することになりました。ただ、「お休みだから何もしない」という選択はしたくありませんでした。ここまで築いてきた絆や思いが途切れてしまうことが、何より残念だったからです。そこで、近隣の学童施設への食材配布や、屋外でのレクリエーション活動を行い、つながりを絶やさないよう努めてまいりました。地域企業様からご提供いただいた食材を、学童や小学生のお子さんたちに配布しました。学校が休校となり、給食を食べられない子どもたちがいるのではな

いかという企業様の思いから、ハンバーグやお米などをご提供いただき、感染対策を徹底しながら、寒い日も暑い日も外でお届けしました。また、グリーンヒル八千代台の駐車場の、風通しの良い場所に学童の子どもたちを招き、ハロウィンやクリスマス会などのイベントも実施しました。食事提供ができない状況でも、交流の場が制限される中でも、「ふらっとホームは楽しい場所なんだよ」ということを伝え続けることができた期間だったと思っています。その後、コロナも徐々に落ち着き、いわゆるウィズコロナ、アフターコロナの取り組みが進む中で、令和3年9月より、テーブルにパーテーションを設置した形ではありますが、食事提供を再開いたしました。「待っていたよ」「楽しみにしていたよ」という声をたくさんいただき、マスク越しでも皆様の笑顔の温かさを強く感じたことを、今でもよく覚えています。コロナが落ち着いてからの「ふらっとホームグリーンヒル八千代台」では、我慢していた分、たくさん楽しいことをしようと、さまざまなイベントを積極的に行っております。その中の代表的な取り組みの一つが、「八千代カレー」の参加です。こちらは、商工会議所の皆様が中心となって行っているイベントで、八千代のバラの花にちなんだバラ肉と、八千代の名産である梨を使ったカレーを、「八千代カレー」として提供しようという取り組みです。特に細かなレシピの決まりがありませんでした。そこで私たちは、近隣の小学生の皆さんに向けて、「あなたが考える八千代カレーを作ってみませんか？」というテーマで、アイデアを募集することにしました。今年で3年目になりますが、令和5年は「あなたの夢の八千代カレー」、令和6年は「大好きな人と一緒に食べたい八千代カレー」、令和7年は「頑張るあなたを応援したい、元気あふれる八千代カレー」というテーマで実施してまいりました。毎回たくさんの応募をいただいています。実際に調理し、皆さんに100食ほど提供させていただいております。どのカレーも見目の可愛さだけでなく、きちんとコンテスト形式で審査を行っています。例えば、「頑張るあなたを応援したい八千代カレー」では、誰を応援したいのか、どんな思いで応援したいのか、将来の夢に向かって頑張るお友達、毎日仕事を頑張っているお父さんやお母さんなど、それぞれの思いが込められていました。昨年八千代カレーの際には、NHKの午後LIVEニュースの生中継が入りました。自分たちが一生懸命考えて作ったカレーが全国に放送されるという体験は、子どもたちにとっても、とても貴重で素晴らしい経験になったのではないかと思います。アイデアを出してくれた子どもたち、そしていつも支えてくださっているボランティアの皆様にもスポットライトが当たったことを、私たちとしても大変うれしく感

じております。

コロナ禍の頃から関わってくださっていた学童の皆様とは、コロナが落ち着いた後も、さらに深く絆が繋がっております。現在では、ハロウィンやクリスマスなど、季節ごとにイベントを立ち上げ、毎回楽しい時間を一緒に過ごさせていただいております。こうしたイベントを重ねる中で、学童を利用されているお母様方からの信頼も少しずつ得ることができ、年々お子様の利用も増えてまいりました。クリスマスパーティーではご近所にいらっしゃるお料理名人の男性が、七面鳥を焼いてくださっています。初年度は1羽だったものが、今年は4羽焼いていただき、すべて完売御礼となりました。コロナ禍以降の参加者は大人と子どもの割合が、ほぼ半々になっています。最近では、夕方にお子様だけで、お友達同士ご飯を食べに来る姿も見られるようになりました。それだけ地域のお母様、お父様方から信頼をいただいているのではないかと感じております。ただ、参加者が増えるにつれて、さまざまな課題やトラブルも出てまいりました。スマートフォンの使用ルール、感染症対策、交通ルールなど、毎回のようにならざるを得ない課題が生じ、その都度、後手後手でルールを作ってしまったことは、反省点でもあります。最初から想定してルールを決めておけばよかったと思うこともありますが、その中で気づかされたのは、「ルールを決めたあとに、私たち自身がぶれない環境づくりをしていくこと」がとても大切だということでした。多くの方が利用される場だからこそ、誰もが気持ちよく過ごせる環境をつくることは難しいですが、非常に重要なことだと感じています。また、子どもたちの事故防止も、決して避けて通れない課題です。怪我ややけど、食物アレルギーの誤食など、できる限り防ぎたいものではありませんが、完全にゼロにすることは難しい現実もあります。その中で私たちが学んだことは、子どもたち自身が、困ったときに早くSOSを出せること、そして自分で対応する力を身につけていくこと、それを私たち大人が支えていくことの大切さです。怪我は子どもにはつきものです。だからこそ、「助けてください」と周りの大人にまっすぐ言える環境づくりが、私たちの役割だと考えています。食物アレルギーは毎回必ず掲示を行っています。個別の特別対応は難しいため、お子さん自身が判断する力を身につけることを大切にしています。初めて利用する際に「アレルギーがある」と話してくれたお子さんには、この表の前に一緒に立ち、「ここに書いてあるから、これを見て、自分で食べられるもの、食べられないものを考えてみてね。困ったら、私たちに相談してね」と伝えていきます。このように利用が増えるにつれ、ありがたいことにご支援の輪も広がってまいりました。地域の皆様、八千代ロータリー

クラブの皆様から、たくさんのご支援をいただいております。本当にありがとうございます。いただいたご支援は、一人ひとりのご利用者様のために、しっかりと還元させていただいております。いただいたご支援は、イベントの開催など、活動費としても大切に活用させていただいております。ここで、共生カフェのあり方をお伝えするために、ひとつだけ事例をご紹介します。共働き家庭の負担軽減につながった事例です。小学生のお子さんが、夕方以降、遅い時間まで子どもだけで過ごしているご家庭がありました。ふらっとホームに通いたい気持ちはあるものの、道のりが不安であること、またお母様が仕事で疲れていらっしゃるという状況がありました。そこで対応として、ボランティアの方が学童から付き添いをしてくださいました。また、お迎えが通常の時間を過ぎてしまっても、夕食を個別に提供する対応を行いました。その後、お子さん一人でも参加できるようになりました。さらに成長して高学年になると、お友達を連れて参加するようになっています。共生カフェは、お父さんお母さんがほっと一息つける場所であり、子どもたちが安心して過ごせる場所であり、そして誰もが安心して集える場所として、これからも活動を続けてまいります。最後に、私自身がこの資料を作成する中で気づいたことがあります。利用者の人数が増えるにつれて、いつの間にか「人数を増やすこと」自体に目が向いてしまっていた部分がありました。規模が大きいことがすごい、人数が多いことが評価される、そう思ってしまうところも正直あったと思います。しかし、改めて原点に立ち返ると、大切なのは人数ではなく、「必要なサービスが、必要な人にきちん届くこと」だと気づきました。これからも、なるべく多くの方に、この安らげる場で過ごしていただけるよう、そして一人ひとりに寄り添う地道な活動を、丁寧に続けていきたいと思っております。

**高齢者複合ケア施設グリーンヒル八千代台
施設長 日高和枝様**

もともと社会福祉法人は、朝戸健先生によって、グリーンヒル本体を上高野の地に設立していただいたことに始まります。その後、原点でもある病院のあ

った場所の近に、ようやく戻ってこることができた施設です。そのため、やはり創設者である先生のお考えのとおり、「どなたでも受け入れること」「重度の医療が必要な方であっても、できる限り受け入れていきたい」という医療と福祉に対する強い思いが、今も法人の根底に流れています。現在、八千代台の施設では、医療機関としっかり連携を取りながら、重度の医療が必要な方も、そして認知症の方々についても、できる限り拒むことなく、安心して施設をご利用いただけるよう運営を行っております。これからも、創設者の遺志をしっかりと受け継ぎ、グリーンヒル八千代台は、地域密着の施設として、地域の皆様とともに歩み続けていきたいと考えております。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。



ニコニコ BOX ~ ¥27,000-

☆本日の卓話楽しみです。☆
杉山・稲山・三井啓久・佐久間・池田・江頭
浅野正敏・鈴木健治・君塚・菊川・江口
朝戸・上代・佐々木・中島貞好・杉
☆用事で早退します。 上村
☆先週欠席しました。 山崎

友愛 BOX ~ ¥28,000-

☆グリーンヒル八千代台4名と社会福祉協議会3名を温かくお迎え頂き感謝します。私も社会福祉協議会理事として本日の会場設営に尽力頂いた SAA 並びにプログラム委員の活動の一助になれば幸いです。友愛 BOX に寄付をさせて頂きました。本日の卓話、よろしくお願致します。橋本
☆83歳になりました。 山崎
☆43回目の結婚記念日です。

世界一良い妻です。 佐野

近隣クラブ例会日		例会場					
火曜日	四街道R.C	四街道ゴルフ倶楽部	2/6	54	48	37	77.08
火曜日	八千代中央R.C	ウィシユトンホテル・ユーカリ					
水曜日	習志野R.C	習志野商工会議所会館					
水曜日	佐倉中央R.C	ウィシユトンホテル・ユーカリ 最終ホバート夜間					
木曜日	佐倉R.C	佐倉商工会議所					
木曜日	習志野中央R.C	習志野商工会議所会館					

2月のロータリーレート1ドル¥154-

- クラブ広報委員会 委員長：花島文成 副委員長：寺沢一三
- 出席委員長：大曾根 直※欠席の際は必ず月曜日迄に出席委員長に連絡して下さい
- 例会日：金曜日 12:30~13:30
- 例会場：パツ・ウヰータ(〒276-0049 八千代市緑が丘 1-1-1 公園都市プラザ 1F:FAX047-450-0050)